







































体育学部健康科学科

科目コード	3F307		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅴ(軟部組織Ⅰ)		担当者名	小玉 京士朗			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は近年高くなっており、業務において重要な位置づけとなっている。本科目では上肢の軟部組織損傷を大きく肩及び上腕部、肘及び前腕部、手関節及び手指部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学修する。

<授業の到達目標>

1. 上肢の軟部組織損傷の疾患概要について説明ができる。
2. 他の疾患との鑑別し、処置方法を判断することができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による疾患に対する説明）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に準じた事前課題（疾患に関係する解剖学（特に運動器系）、疾患の概要の下調べ（毎回、1時間程度））、  
 復習：振り返り確認試験（毎回、15分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）と関連付けております。疾患に対し基礎情報に加え新知見など様々な症例報告や画像所見を通じより理解を深め、疾患に対し治療する計画性や考え方を多目的に伸ばし汎用能力の習得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験90%、学習意欲10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修(2013年12月10日)  
 「柔道整復学・理論編」  
 南江堂全国柔道整復学校協会 監修(2013年12月10日)  
 「柔道整復学・実技編」  
 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス
2	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(1)	腱板断裂
3	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(2)	上腕二頭筋長頭腱損傷、ベネット損傷
4	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(3)	SAP損傷、インピンジメント症候群
5	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(4)	野球肩、oose shouder
6	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(5)	肩甲上神経絞扼、五十肩、石灰性腱炎、変形性肩関節症
7	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(1)	肘側副靭帯損傷、野球肘
8	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(2)	テニス肘、前腕コンパートメント、肘関節後外側不安定症
9	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(3)	正中神経障害、橈骨神経障害
10	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(4)	尺骨神経障害、パンナー病、変形性肘関節症
11	手関節及び手指部の軟部組織損傷(1)	TFCC損傷、指側副靭帯損傷、ロッキングフィンガー
12	手関節及び手指部の軟部組織損傷(2)	手根管症候群、ギヨン管症候群、キーンバック病、マーデルング、デュピイトラン拘縮
13	手関節及び手指部の軟部組織損傷(3)	ドケルバン病、ばね指
14	手関節及び手指部の軟部組織損傷(4)	ヘバーデン結節、ボタン穴変形、スワンネック変形
15	まとめ	総合復習、総合討議

体育学部健康科学科

科目コード	3F302		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	整形外科科学Ⅱ		担当者名	石原 和泰			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、整形外科科学各論にあたる部分である。すなわち、整形外科身体部位別各論と柔道整復学との関連性について学習する。

<授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に整形外科的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話しが出来ることを目標とする。

<授業の方法>

概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニツツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義のレジュメは各回の講義の最初に配布する。講義中はきちんとノートを取り、復習に力点(2時間)をおくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP6（感性豊かな人間性と高い医業倫理を備え、柔道整復学を中心として、健康科学、体育学、スポーツ医科学の学際的領域で他者と協調できるスキルを身に付けている。）及びDP8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 90%、出席点 10% 公欠の場合：当該授業に関連したレポートを提出すること（内容は任意）レポートの提出により出席点を与えること。

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修

「整形外科科学」

南江堂

<参考書>

松野 丈夫 監修

「標準整形外科科学」第13版

医学書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	身体部位別各論 (1)	頸部 (1)
2	身体部位別各論 (2)	頸部 (2)
3	身体部位別各論 (3)	胸部
4	身体部位別各論 (4)	腰部 (1)
5	身体部位別各論 (5)	腰部 (2)
6	身体部位別各論 (6)	肩・肩甲帯
7	身体部位別各論 (7)	上腕・肘関節
8	身体部位別各論 (8)	前腕
9	身体部位別各論 (9)	手関節
10	身体部位別各論 (10)	手・手指
11	身体部位別各論 (11)	骨盤・股関節
12	身体部位別各論 (12)	大腿・膝関節
13	身体部位別各論 (13)	下腿・足関節
14	身体部位別各論 (14)	足・足趾
15	まとめ	総括

科目コード	3F304		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	リハビリテーション医学Ⅱ		担当者名	廣重 陽介			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、リハビリテーション医学分野で頻繁に遭遇する疾患に対する運動器および高齢化のリハビリテーションについて、病態・評価・リハビリテーションなどを学習する。加えて、リハビリテーションの治療技術やリハビリテーション医学に関係した社会福祉、障害者スポーツについて学ぶ。リハビリテーション医学分野における柔道整復師の役割について概説する。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

リハビリテーション医学分野における基礎的な知識、特に1) 他の関係職種との共通言語や共通認識を構築やその役割の理解、2) 高齢者や運動器を中心とした疾患別リハビリテーションの流れの概説、3) リハビリテーション医学に関連した社会福祉、障害者スポーツについての理解ができるようになることを目標とする。

<授業の方法>

視聴覚教材、配布資料を適宜使い、教科書に沿って授業を進行する。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学習時の疑問についてはその都度質問するようにすること。本講義において、機能解剖、運動学、疾患における測定評価、治療に関する理解が必要である。したがって、教科書や配布資料（事前に配布する）、ノートなどを活用して各回当該箇所の基本的事項、他の授業で学んだ関連部分の予習および復習を各60分以上行い、理解を深めること。事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目はディプロマポリシー2の、「柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技能を理解し、日々進歩する医学分野に対応できる能力を身に付けている」に該当し、柔道整復師としてのリハビリテーション分野における能力向上の機会を提供する。主として、疾患別のリハビリテーションについてを教示し、柔道整復師としてのリハビリテーション分野における能力向上の機会を提供する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席、事前学習、小テスト）、定期試験（中間試験 35%、期末試験 35%）70%事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

全国柔道整復学校協会（監修）、栢森良二（編）（2019年4月10日）

リハビリテーション医学 改定第3版

南江堂

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の概要，到達目標，評価方法等の説明
2	リハビリテーション治療技術 (1)	理学療法
3	リハビリテーション治療技術 (2)	作業療法・言語聴覚療法
4	リハビリテーション治療技術 (3)	補装具
5	高齢者のリハビリテーション (1)	平均寿命と健康寿命/フレイル/高齢者をとりまく医療制度/認知症/高齢者虐待
6	高齢者のリハビリテーション (2)	要介護状態の予防/リハビリテーション前置主義/地域リハビリテーション/パーキンソン病のリハビリテーション
7	高齢者のリハビリテーション (3)	脳卒中
8	中間試験	試験と解説
9	運動器のリハビリテーション (1)	骨折の治療と後療法
10	運動器のリハビリテーション (2)	骨粗鬆症、捻挫へのアプローチ
11	運動器のリハビリテーション (3)	上肢損傷後症候群
12	運動器のリハビリテーション (4)	下肢損傷後症候群
13	運動器のリハビリテーション (5)	頸肩腕症候群・腰椎症の病態とアプローチ
14	運動器のリハビリテーション (6)	肋骨骨折へのアプローチ、アキレス腱断裂へのアプローチ
15	リハビリテーションと福祉障害者スポーツ	社会福祉、介護保険、障害者スポーツの概要・歴史・分類・種目・評価と効果

科目コード	3F308		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅵ(軟部組織Ⅱ)		担当者名	小玉 京士朗			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は近年益々高くなっており、業務において重要な位置づけとなっている。本講義では下肢の軟部組織損傷を大きく股関節部、大腿部、膝部、下腿部、足関節部、足部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学習する。

<授業の到達目標>

各損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について説明ができる。

<授業の方法>

1. 教科書を中心とした講義

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：受講する講義に関する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（下肢の筋（起始停止、作用、支配神経）、講義内容の疾患の事前下調べ（毎回、1時間程度））、復習：講義開始終了時に実施内容の振り返りテスト（毎回、15分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科のディプロマポリシー5「科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付ける」と関連付けている。下肢軟部組織疾患に対し基礎情報に加え新知見など様々な症例報告や画像所見を通じより理解を深め、疾患に対し治療する計画性や考え方を多目的に伸ばし汎用能力の習得を目指す。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験90％，学習意欲10％

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修  
柔道整復学・理論編  
南江堂全国柔道整復学校協会監修  
柔道整復学・実技編  
南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	股関節の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及びスポーツ障害
2	股関節の軟部組織損傷	成長期の障害及び加齢による障害
3	股関節の軟部組織損傷	その他の障害
4	大腿部の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及びスポーツ障害
5	膝関節部の軟部組織障害	発育期の障害
6	膝関節部の軟部組織障害	靭帯損傷
7	膝関節部の軟部組織障害	半月板損傷
8	膝関節部の軟部組織障害	関節周囲の損傷
9	膝関節部の軟部組織障害	変形性膝関節症
10	膝関節部の軟部組織障害	その他の膝の損傷及び障害
11	下腿部の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及び障害
12	足部の軟部組織損傷	靭帯損傷
13	足部の軟部組織損傷	足部の有痛性疾患
14	足部の軟部組織損傷	変形及び末梢神経障害
15	まとめ	総復習

科目コード	40115			区分	コア科目				
授業科目名	整復学実技 I (包帯法 I) 《連続》			担当者名	畑島 紀昭、坂本 賢広、簀戸 崇史				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な包帯法の基礎を学びます。受講態度は柔道整復師としてふさわしいものを求めます。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価します。

<授業の到達目標>

柔道整復師の技術として必要な基本包帯法に関する知識および技術の習得を目標とする。

<授業の方法>

実技の習得には反復することが求められ、授業内では実技の練習を繰り返し実施する。また、実技の習得確認のための試験を複数回実施する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書で次の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。(毎回、1時間程度) 復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。(毎回、2時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科のディプロマポリシー2(柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技術を理解し、日々進歩する医療分野に対応できる能力を身に付ける。)と関連付けられています。柔道整復師としての実技基礎を学び、臨床現場で必要な技術の習得を通じて今後の学習の基礎を涵養する。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

全国柔道整復学校協会

「包帯固定学」

南江堂

全国柔道整復学校協会

「柔道整復学・実技編」

南江堂

全国柔道整復学校協会

「柔道整復学・理論編」

南江堂

<参考書>

全国柔道整復学校協会

柔道整復師のための救急医学

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション-授業内容の説明-	授業内容を説明する。
2	オリエンテーション-成績評価の説明-	成績評価の方法を説明する。
3	基本包帯法練習①-包帯の種類-	包帯の種類を説明する。
4	基本包帯法練習①-包帯の扱い方-	包帯の扱い方を説明する。
5	基本包帯法練習②-環行帯-	環行帯の巻き方を説明する。
6	基本包帯法練習②-折転帯-	折転帯の巻き方を説明する。
7	基本包帯法練習③-前腕部環行帯-	前腕部における環行帯の巻き方を説明する。
8	基本包帯法練習③-前腕部折転帯-	前腕部における折転帯の巻き方を説明する。
9	基本包帯法練習④-亀甲帯-	亀甲帯の巻き方を説明する。
10	基本包帯法練習④-肘関節亀甲帯-	肘関節における亀甲帯の巻き方を説明する。
11	基本包帯法練習④-麦穂帯-	麦穂帯の巻き方を説明する。
12	基本包帯法練習④-手関節麦穂帯-	手関節における麦穂帯の巻き方を説明する。
13	基本包帯法練習⑤-前腕部下行-	前腕部環行帯と手関節麦穂帯の巻き方を説明する。
14	基本包帯法練習⑤-前腕部上行-	前腕部折転帯と肘関節亀甲帯の巻き方を説明する。
15	テーピング固定法 (1)	足関節のテーピングについて説明する。
16	テーピング固定法 (2)	足関節のテーピング固定法の基礎を学習する。

17	テーピング固定法 (3)	足関節のテーピング固定法の応用を学習する。
18	部位別包帯法練習①－肩関節理論－	肩関節外傷の理論について説明する。
19	部位別包帯法練習①－肩関節実技－	肩関節外傷の包帯法について説明する。
20	部位別包帯法練習②－肘関節理論－	肘関節外傷の理論について説明する。
21	部位別包帯法練習②－肘関節実技－	肘関節外傷の包帯法について説明する。
22	部位別包帯法練習③－股関節・大腿部理論－	股関節・大腿部外傷の理論について説明する。
23	部位別包帯法練習③－股関節・大腿部実技－	股関節・大腿部外傷の包帯法について説明する。
24	部位別包帯法練習④－下腿部・足関節理論－	下腿部・足関節外傷の理論について説明する。
25	部位別包帯法練習④－下腿部・足関節実技－	下腿部・足関節外傷の包帯法について説明する。
26	救急処置 総論	救急処置について学習する。
27	救急処置 柔道整復師ができること①	救急処置法について学習する。
28	救急処置 柔道整復師ができること②	救急処置法について学習する。
29	救急処置 柔道整復師ができること③	救急蘇生方について学習する。
30	救急処置 柔道整復師ができること④	救急蘇生方について学習する。

40116

科目コード	40116			区分	コア科目				
授業科目名	整復学実技Ⅱ(包帯法Ⅱ)《連続》			担当者名	畑島 紀昭、坂本 賢広、東 千尋				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な包帯法の基礎を学びます。受講態度は柔道整復師としてふさわしいものを求めます。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価します。

<授業の到達目標>

柔道整復師の技術として必要な冠名包帯、固定材料に関する知識および技術の習得を目標とする。

<授業の方法>

実技の習得には反復することが求められ、授業内では実技の練習を繰り返し実施する。また、実技の習得確認のための試験を複数回実施する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書で次の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。(毎回、1時間程度) 復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。(毎回、2時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科のディプロマポリシー2(柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技術を理解し、日々進歩する医療分野に対応できる能力を身に付ける。)と関連付けられています。柔道整復師としての実技基礎を学び、臨床現場で必要な技術の習得を通じて今後の学習の基礎を涵養する。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

全国柔道整復学校協会

「包帯固定学」

南江堂

全国柔道整復学校協会

「柔道整復学・実技編」

南江堂

全国柔道整復学校協会

「柔道整復学・理論編」

南江堂

<参考書>

全国柔道整復学校協会

「柔道整復師のための救急医学」

南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション-授業内容の説明-	授業内容を説明する。
2	オリエンテーション-成績評価の説明-	成績評価の方法を説明する。
3	部位別包帯法練習①-上肢-	上肢の包帯法について説明する。
4	部位別包帯法練習①-下肢-	下肢の包帯法について説明する。
5	部位別包帯法練習②-手部・指部理論-	手部・指部外傷の理論について説明する。
6	部位別包帯法練習②-手部・指部実技-	手部・指部外傷の包帯法について説明する。
7	部位別包帯法練習③-足部・指部理論-	足部・指部外傷の理論について説明する。
8	部位別包帯法練習③-足部・指部実技-	足部・指部外傷の包帯法について説明する。
9	冠名包帯法練習①-ヴェルポー包帯法-	ヴェルポー包帯法の巻き方を説明する。
10	冠名包帯法練習①-ジュール包帯法-	ジュール包帯法の巻き方を説明する。
11	冠名包帯法練習②-デゾー包帯法-	デゾー包帯法の巻き方を説明する。
12	冠名包帯法練習②-ヴェルポー包帯法練習-	ヴェルポー包帯法の巻き方を練習する。
13	冠名包帯法練習③-ジュール包帯法練習-	ジュール包帯法の巻き方を練習する。
14	冠名包帯法練習③-デゾー包帯法練習-	デゾー包帯法の巻き方を練習する。



15	冠名包帯法まとめ (1) - ヴェルポー包帯法・ジュール包帯法 -	ヴェルポー包帯法・ジュール包帯法の実技の総合学習をおこなう。
16	冠名包帯法まとめ (2) - デゾー包帯法 -	デゾー包帯法の実技の総合学習を行う。
17	硬性材料を用いた固定法① - 厚紙副子作成 -	厚紙副子の作り方を説明する。
18	硬性材料を用いた固定法① - 厚紙副子固定 -	厚紙副子を用いた固定法を説明する。
19	硬性材料を用いた固定法② - すだれ副子作成 -	すだれ副子の作り方を説明する。
20	硬性材料を用いた固定法② - すだれ副子固定 -	すだれ副子を用いた固定法を説明する。
21	硬性材料を用いた固定法③ - 金属副子作成 -	金属 (クラーメル) 副子の作り方を説明する。
22	硬性材料を用いた固定法③ - 金属副子固定 -	金属 (クラーメル) 副子を用いた固定法を説明する。
23	硬性材料を用いた固定法④ - アルミ副子作成 -	アルミ副子 (アルフェンス) の作り方を説明する。
24	硬性材料を用いた固定法④ - アルミ副子固定 -	アルミ副子 (アルフェンス) を用いた固定法を説明する。
25	ギプスを用いた固定法① - ギプスの巻き方 -	ギプスの巻き方を説明する。
26	ギプスを用いた固定法① - ギプス固定 -	ギプスを用いた固定法を説明する。
27	キャストを用いた固定法① - キャストの巻き方 -	キャストの巻き方を説明する。
28	キャストを用いた固定法① - キャスト固定 -	キャストを用いた固定法を説明する。
29	包帯法まとめ (1)	授業内容の総合評価をおこなう。
30	包帯法まとめ (2)	授業内容の総合評価をおこなう。

40212

科目コード	40212			区分	柔道整復実技科目				
授業科目名	整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ)《連続》			担当者名	河野 儀久、簀戸 崇史、東 千尋				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な上肢の外傷に対する整復・固定法を学びます。1年生で学んだ総論と理論の知識を活用し、臨床で通用する実技の技術を修得してもらいます。

<授業の到達目標>

柔道整復師の技術として必要な上肢の外傷に関する口頭説明能力および整復・固定法の修得を目標とする。

<授業の方法>

柔道整復学理論で学んだ知識をもとに整復・固定法の実技を学習します。実技の修得には反復することが求められますので、授業内では実技の練習を繰り返しおこないます。また、実技の修得確認のための試験を複数回実施します。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、60分以上柔道整復学理論の学習することを望みます。加えて、授業内の実技試験の対策として60分以上の復習をしっかりと行ってください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科のディプロマポリシー5(科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている)と関連付けられています。上肢骨折に対する整復・固定の知識と技術を学ぶことで、高齢者、スポーツ現場など様々な場面における傷害発生時に医療の専門的な処置を行う実践力を修得するための科目である。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲6%・試験94%

<教科書>

全国柔道整復学校協会(2012)  
「柔道整復学・実技編 改訂第2版」

南江堂

全国柔道整復学校協会(2003)  
「包帯固定学」

南江堂

全国柔道整復学校協会(2009)  
「柔道整復学・理論編 改訂第5版」

南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション(1) 内	授業内容と成績評価の方法を説明する。
2	オリエンテーション(2)	授業の進め方と予定について説明する。
3	上肢骨折固定法(1)－鎖骨骨折理論①－	鎖骨に関する解剖学について説明する。
4	上肢骨折固定法(1)－鎖骨骨折理論②－	鎖骨骨折の理論について説明する。
5	上肢骨折固定法(1)－鎖骨骨折実技①－	鎖骨骨折の実技について説明する。
6	上肢骨折固定法(1)－鎖骨骨折実技②－	鎖骨骨折の問診・整復実技を習得する。
7	上肢骨折固定法(1)－鎖骨骨折実技③－	鎖骨骨折の固定法実技を習得する。
8	上肢骨折固定法(1)－鎖骨骨折実技④－	鎖骨骨折の問診・整復・固定実技を総合的に習得する。(実技確認試験)
9	上肢骨折固定法(2)－上腕骨外科頸骨折理論①－	上腕骨外科頸骨折の理解に必要な解剖学について説明する。
10	上肢骨折固定法(2)－上腕骨外科頸骨折理論②－	上腕骨外科頸骨折の理論について説明する。
11	上肢骨折固定法(2)－上腕骨外科頸骨折実技①－	上腕骨外科頸骨折の実技について説明する。
12	上肢骨折固定法(2)－上腕骨外科頸骨折実技②－	上腕骨外科頸骨折の問診・整復実技を習得する。
13	上肢骨折固定法(2)－上腕骨外科頸骨折実技③－	上腕骨外科頸骨折の固定法実技を習得する。
14	上肢骨折固定法(2)－上腕骨外科頸骨折	上腕骨外科頸骨折の問診・整復・固定実技を総合的に習得する。(実技確認試験)

15	実技④－ 上肢骨折固定法(3)－第5中手骨頸部骨折 理論①－	第5中手骨頸部骨折の理解に必要な解剖学について説明する。
16	上肢骨折固定法(3)－第5中手骨頸部骨折 実技①	第5中手骨頸部骨折の固定実技を習得する①
17	上肢骨折固定法(3)－第5中手骨頸部骨折 ②－	第5中手骨頸部骨折の固定実技を習得する②
18	上肢骨折固定法(4)－第2指PIP関節背側 脱臼理論－	第2指PIP関節背側脱臼の理解に必要な解剖学について説明する。
19	上肢骨折固定法(4)－第2指PIP関節背側 脱臼実技①－	第2指PIP関節背側脱臼の固定実技を習得する①
20	上肢骨折固定法(4)－第2指PIP関節背側 脱臼実技②－	第2指PIP関節背側脱臼の固定実技を習得する②
21	上肢骨折固定法(4)－橈骨遠位端部骨折 理論①－	橈骨遠位端部の解剖について説明する。
22	上肢骨折固定法(4)－橈骨遠位端部骨折 理論②－	橈骨遠位端部骨折の理論について説明する。
23	上肢骨折固定法(4)－橈骨遠位端部骨折 実技①－	橈骨遠位端部骨折の実技について説明する。
24	上肢骨折固定法(4)－橈骨遠位端部骨折 実技②－	橈骨遠位端部骨折の間診・整復実技を習得する。
25	上肢骨折固定法(4)－橈骨遠位端部骨折 実技③－	橈骨遠位端部骨折の固定法実技を習得する。
26	上肢骨折固定法(4)－橈骨遠位端部骨折 実技④－	橈骨遠位端部骨折の間診・整復・固定実技を総合的に習得する。(実技確認試験)
27	上肢骨折整復・固定法まとめ(1)	鎖骨骨折・外科頸骨折の実技総合学習
28	上肢骨折整復・固定法まとめ(2)	第5中手骨頸部骨折、第2指PIP関節背側脱臼固定法の総合復習
29	上肢骨折整復・固定法まとめ(3)	
30		

50000

科目コード	40301				区分	柔道整復学実技			
授業科目名	整復学実技V(下肢・固定法I)《連続》				担当者名	小玉 京士朗、坂本 賢広、東 千尋			
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師 養成施設必 修科目

<授業の概要>

固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技VIでは股関節、大腿骨、膝蓋骨の外傷（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

<授業の到達目標>

1. 下肢に生じる外傷の病態把握の習得ができる。2. 症状に対する治療法の判断、処置方法、整復方法を理解し実施できる。

<授業の方法>

1. グループワーク（疾患に対する治療手法（整復動作、固定動作））2. 講義（教員による疾患概要、治療手法指導）3. ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義の事前課題（実施する疾患に対する下調べ（毎回、30分程度））復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は健康科学科のディプロマポリシー6（柔道整復学を中心とした、健康科学、体育学、スポーツ医学の学際的領域で他者と協調できるスキル習得）および8（習得した知識・技術等を総合的に活用し、自らが立案した課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。基礎専門科目で修得した下肢骨折、脱臼に対する学修能力をPB（問題解決学習）を通じて、症例に対する鑑別、治療計画の組み立て型について理解を深め、疾患に対し治療する計画性や考え方を多目的に伸ばし汎用能力の習得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験35%、定期試験35%、学習意欲30%

<教科書>

全国柔道整復学校協会  
柔道整復学・理論編  
南江堂  
全国柔道整復学校協会  
柔道整復学・実技編  
南江堂

<参考書>

全国柔道整復学校協会  
柔道整復学・包帯固定学  
南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義の内容、評価方法、受講態度について
2	固定法	固定法に対する指導管理、固定の理解と指導について
3	大腿骨頸部骨折（1）	大腿骨頸部骨折における概要について
4	大腿骨頸部骨折（2）	大腿骨頸部骨折における整復法について
5	大腿骨頸部骨折（3）	大腿骨頸部骨折における固定法（クラーメル固定）について
6	股関節脱臼（1）	股関節脱臼における概要について
7	股関節脱臼（2）	股関節脱臼における整復法について
8	股関節脱臼（3）	股関節脱臼における固定法（クラーメル固定）について
9	股関節における評価（1）	関節可動域、下肢長について
10	股関節における評価（2）	ケーススタディによる評価方法（動作分析）について
11	股関節における評価（3）	MMT、代償運動について
12	大腿骨骨幹部骨折（1）	大腿骨骨幹部骨折における概要について

13	大腿骨骨幹部骨折（2）	大腿骨骨幹部骨折における整復法について
14	大腿骨骨幹部骨折（3）	大腿骨骨幹部骨折における固定法について
15	下腿骨骨骨折（1）	下腿骨骨骨折における概要について
16	下腿骨骨骨折（2）	下腿骨骨骨折における整復法、固定法（クラーメル固定）について
17	下腿骨骨骨折（3）	下腿骨骨骨折における整復法、固定法（ギブス固定）について
18	下肢外傷の応急処置（1）	下肢外傷の応急処置（救急搬送固定）
19	下肢外傷の応急処置（2）	下肢外傷の応急処置（循環、神経学的所見の確認）
20	下肢外傷における評価（1）	関節可動域訓練と可動域について
21	下肢外傷における評価（2）	アライメントとマルアライメントについて
22	下肢外傷における評価（3）	筋周径と運動療法について
23	ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患（1））	股関節周囲の運動器疾患に対する評価（画像評価）について
24	ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患（2））	股関節周囲の運動器疾患に対する評価（理学所見）と治療指針について
25	ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患（3））	股関節周囲の運動器疾患に対する評価（視診から鑑別疾患、対処法の指示）について
26	ケーススタディ（膝関節周囲の運動器疾患（1））	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価（画像評価）について
27	ケーススタディ（膝関節周囲の運動器疾患（2））	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価（理学所見）と治療指針について
28	ケーススタディ（膝関節周囲の運動器疾患（3））	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価（視診から鑑別疾患、対処法の指示）について
29	総復習（1）	大腿骨頸部骨折、股関節脱臼、股関節周囲の評価について
30	総復習（2）	大腿骨骨幹部骨折、下腿骨骨折および評価について

40302

科目コード	40302				区 分	柔道整復実技			
授業科目名	整復学実技VI(下肢・固定法Ⅱ) 《連続》				担当者名	小玉 京士朗、坂本 賢広			
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師 養成施設必 修科目

＜授業の概要＞

固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技VIでは大腿部、膝関節部、下腿部の外傷（軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

＜授業の到達目標＞

1. 下肢に生じる外傷（軟部組織損傷）の病態把握の習得ができる。2. 症状に対する治療法の判断、処置方法を理解し実施できる。

＜授業の方法＞

1. グループワーク（疾患に対する治療手法（理学検査、固定動作））2. 講義（教員による疾患概要、所見手法指導）3. ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する疾患に対する下調べ（毎回、30分程度）復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

「習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自身の問題解決や課題に取り組み、自ら解決することができる力」を育成する応用科目である。基礎専門科目で修得した下肢の軟部組織損傷に対する知識を基に、実技を通して課題を遂行して行き、それぞれの症例に対する鑑別、治療計画の組み立て型について理解を深め、臨床現場に備える機会を提供する。本科目は健康科学科のディプロマポリシー6（柔道整復学を中心とした、健康科学、体育学、スポーツ医学の学際的領域で他者と協調できるスキル習得）および8（習得した知識・技術等を総合的に活用し、自らが立案した課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けております。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲10%、学習評価・実技試験90%

＜教科書＞

全国柔道整復学校協会監修

柔道整復学・理論編

南江堂

全国柔道整復学校協会監修

柔道整復学・実技編

南江堂

全国柔道整復学校協会監修

包帯固定学

南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	下肢機能の評価	下肢関節の可動域測定法
2	下肢機能の評価	下肢機能の筋力評価（MMT）
3	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの理論実技
4	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの理学検査
5	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの固定法
6	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理論実技
7	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理学検査
8	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの固定法
9	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の理論実技
10	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の固定法
11	膝部の整復固定実技	膝蓋骨脱臼の理論実技
12	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の固定法

13	膝部の整復固定実技	膝関節外傷における応急処置固定法 1
14	膝部の整復固定実技	膝関節外傷における応急処置固定法 2
15	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の理論実技
16	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の理学検査
17	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の固定法
18	膝部の整復固定実技	十字靭帯損傷の理学検査 1
19	膝部の整復固定実技	十字靭帯損傷の理学検査 2
20	膝部の整復固定実技	半月板損傷の理学検査 1
21	膝部の整復固定実技	半月板損傷の理学検査2
22	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の理論実技
23	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の理学検査
24	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の固定法
25	足関節及び足部の整復固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の理学検査
26	足関節及び足部の整復固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の固定法
27	まとめ1	総復習 1
28	まとめ2	総復習2
29	まとめ3	総復習3
30	まとめ4	総復習4

40302

科目コード	40302				区分	柔道整復実技			
授業科目名	整復学実技VI(下肢・固定法Ⅱ) [2018年度入学 生用]				担当者名	小玉 京士朗、坂本 賢広			
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師 養成施設必 修科目

<授業の概要>

固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技VIでは大腿部、膝関節部、下腿部の外傷（軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

<授業の到達目標>

1. 下肢に生じる外傷（軟部組織損傷）の病態把握の習得ができる。2. 症状に対する治療法の判断、処置方法を理解し実施できる。

<授業の方法>

1. グループワーク（疾患に対する治療手法（理学検査、固定動作））2. 講義（教員による疾患概要、所見手法指導）3. ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する疾患に対する下調べ（毎回、30分程度）復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自身の問題解決や課題に取り組み、自ら解決することができる力」を育成する応用科目である。基礎専門科目で修得した下肢の軟部組織損傷に対する知識を基に、実技を通して課題を遂行して行き、それぞれの症例に対する鑑別、治療計画の組み立て型について理解を深め、臨床現場に備える機会を提供する。本科目は健康科学科のディプロマポリシー6（柔道整復学を中心とした、健康科学、体育学、スポーツ医学の学際的領域で他者と協調できるスキル習得）および8（習得した知識・技術等を総合的に活用し、自らが立案した課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けております。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲10%、学習評価・実技試験90%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修

柔道整復学・理論編

南江堂

全国柔道整復学校協会監修

柔道整復学・実技編

南江堂

全国柔道整復学校協会監修

包帯固定学

南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	下肢機能の評価	下肢関節の可動域測定法
2	下肢機能の評価	下肢機能の筋力評価（MMT）
3	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの理論実技
4	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの理学検査
5	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの固定法
6	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理論実技
7	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理学検査
8	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの固定法
9	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の理論実技
10	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の固定法



11	膝部の整復固定実技	膝蓋骨脱臼の理論実技
12	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の固定法
13	膝部の整復固定実技	膝関節外傷における応急処置固定法 1
14	膝部の整復固定実技	膝関節外傷における応急処置固定法 2
15	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の理論実技
16	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の理学検査
17	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の固定法
18	膝部の整復固定実技	十字靭帯損傷の理学検査 1
19	膝部の整復固定実技	十字靭帯損傷の理学検査 2
20	膝部の整復固定実技	半月板損傷の理学検査 1
21	膝部の整復固定実技	半月板損傷の理学検査2
22	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の理論実技
23	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の理学検査
24	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の固定法
25	足関節及び足部の整復固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の理学検査
26	足関節及び足部の整復固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の固定法
27	まとめ1	総復習 1
28	まとめ2	総復習2
29	まとめ3	総復習3
30	まとめ4	総復習4

科目コード	53030				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅰ 《通年》				担当者名	飯出 一秀、古山 喜一、河野 儀久、坂本 賢広、簗戸 崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	必修

<授業の概要>

患者様と接する臨床実習が大学附属接骨院で開始されるが、その臨床実習を開始するにあたり過不足の無い内容を実習を通して学ぶ。その為には、安心・安全な医療を提供し、国民から必要とされている接骨院がどのような機能を果たせば良いのか、あるいは安価で質の良い医療を提供する為に我々ほどの様な社会的基盤づくりが必要なのかといった柔道整復術に関わる方策問題に始まり、実際に患者様から痛みの原因を患者様の背景を含めて探り出す医療面接技法に到るまでを学習する。

<授業の到達目標>

患者に寄り添った施術を理解し、病態情報の的確な評価、後療法のプログラムの立案、ゴール設定、管理ができるようになる。

<授業の方法>

接骨院実習および少人数制のグループ単位を基本とし、実技・実習形態で行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

症例(担当患者)・実習内容(実技・講義・討論)をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート(A4-1枚程度)を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。(1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科ディプロマポリシー7に関連付けられている「日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付けている」を備え、整復臨床実習Ⅱの現場実習にスムーズに導かれるよう、診察手順に始まり、計測・評価を科学的思考を基本にした治療計画の組み立て方について理解を深め、臨床現場に備える機会とする。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

単元ごとの実技試験(50%)、実習レポート(50%)で評価する。

<教科書>

全国柔道整復学校協会・監修  
運動学

医歯薬出版

<参考書>

ヘレン・J・ヒスロップ, ジャクリン・モントゴメリー

新・徒手筋力検査法

協同医書出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	接骨院実習・ガイダンス	実習内容の説明 グループ決め
2	接骨院実習・身体計測	肢長・周囲径等
3	接骨院実習・関節可動域測定法	人体の面と線及び運動
4	接骨院実習・関節可動域測定法	上肢の計測
5	接骨院実習・関節可動域測定法	体幹及び下肢の計測
6	接骨院実習・関節可動域測定法	総合1
7	接骨院実習・関節可動域測定法	総合2
8	接骨院実習・徒手筋力検査(MMT)	上肢の徒手筋力検査(MMT)
9	接骨院実習・徒手筋力検査(MMT)	下肢の徒手筋力検査(MMT)
10	接骨院実習・徒手筋力検査(MMT)	体幹の徒手筋力検査(MMT)
11	接骨院実習・徒手筋力検査(MMT)	総合1
12	接骨院実習・徒手筋力検査(MMT)	総合2
13	接骨院実習・神経学的検査法	上肢・下肢・体幹の神経学的検査法

14	接骨院実習・柔道整復師の保険施術について、施術協定、保険外診療など	保険で使用する傷病名、保険給付の仕組み
15	接骨院実習・接骨院の受付、施術者、スタッフの心掛けルール	接骨院での服装、挨拶、言葉使い、患者の立場になって、リスク管理等
16	接骨院実習・施術	上肢の手技療法1(stretching)
17	接骨院実習・施術	上肢の手技療法2 (massage)
18	接骨院実習・施術	上肢の運動療法
19	接骨院実習・施術	下肢・体幹の手技療法1(stretching)
20	接骨院実習・施術	下肢・体幹の手技療法2 (massage)
21	接骨院実習・施術	下肢・体幹の運動療法
22	接骨院実習・物理療法	物理療法機器の適応と禁忌及び実際の取り扱い1
23	接骨院実習・物理療法	物理療法機器の適応と禁忌及び実際の取り扱い2
24	接骨院実習・診察技法	問診に必要な技法と態度
25	接骨院実習・診察技法	臨床における施術録(カルテ)の書き方
26	接骨院実習・診察技法	紹介状・お礼状の書き方・問診のシュミレーション
27	接骨院実習・診察技法	問診・視診・触診・理学検査の実際(ロールプレイ)1
28	接骨院実習・診察技法	問診・視診・触診・理学検査の実際(ロールプレイ)2
29	接骨院実習・診察技法	問診・視診・触診・理学検査の実際(ロールプレイ)3
30	まとめ	総復習

科目コード	53031				区分	キャリア形成科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅱ 《通年》				担当者名	飯出 一秀、古山 喜一、河野 儀久、坂本 賢広、箕戸 崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	必修

<授業の概要>

附属臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。また、掃除、洗濯、湿布作りなどの業務に付帯する各種業務も行う。柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。必要に応じて、ケーススタディー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に傷病は何であるか、さらに今後の施術方針などを検討する。ロールプレー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に、患者様入室から施術開始までの流れを 柔道整復師役、患者役に分けてそれぞれ実施することもある。

<授業の到達目標>

柔道整復師として必要条件となる接骨院での評価、評価に基づく患者様への説明、施術の組み立てができる。整復・固定・施療とともに後療法をプログラミングし、リスクマネージメントが実行できる。

<授業の方法>

基本的に接骨院でのフィールドワークとするが、導入講義等は講義室・実技室を使用する。・白衣の乱れ、服装、頭髪、装飾品など患者様から見て不適切な印象を与えると思われる場合には実習の参加を認めないことがある。・また、実習中の態度が悪く患者様に迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学ばなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科ディプロマポリシー7に関連付けられている「日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付けている」を備え、整復臨床実習Ⅲにスムーズに導かれるよう、診察手順に始まり、計測・評価を科学的思考を基本にした治療計画の組み立て方について理解を深め、臨床現場に備える機会とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習レポート80%および実習現場での受講態度・学習意欲20%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
5	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
6	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
7	接骨院実習・後療法について	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
8	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	施術者としてチェックポイントをクリアしているか1
9	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
10	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
11	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
12	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
13	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
14	接骨院実習・研究課題によるケーススタディー	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
15	接骨院実習	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
16	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
17	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施

体育学部健康科学科

18	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
19	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
20	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
21	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
22	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
23	接骨院実習	施術者としてチェックポイントをクリアしているか2
24	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
25	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
26	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
27	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
28	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
29	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
30	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施・振り返り